CS 神戸は、**自立と共生**を目指し、より良い社会のために主体的に活動する人々をサポートするとともに、自らの活動を通じて、誰もが尊重され支えあう地域社会の実現をめざします。

認定 NPO 法人　コミュニティ・サポートセンター神戸（CS 神戸）

市民 CS 神戸 フロンティア

2015 年 1 月25日発行　通巻 75 号

2015 年 1 月 9 日　新春のつどいにて

2015 年を特別な思いで迎えます！

理事長　中村順子

1995 年 1 月 17 日阪神淡路大震災から 20 年を経て、2015 年を迎えることとなりました。震災復興活動を起源に立ち上がった CS 神戸にとって、本年は特別の意味があります。生死の際ともいえるあの揺れと復旧・復興を体験した一人ひとりがそれぞれに感じた「教訓を伝え続けていますか」という鋭く重い問いかけに応える節目と思うからです。

この 20 年、復興の歩みと同時進行したのは日本の高齢化であり、今や高齢化率 25%という世界に類を見ない高齢社会となりました。当時より仮設住宅ではそのような社会を先取りする形で、高齢者の居場所つくりやサロン活動など互いにいたわり助け合うコミュニティをサポートしてきた活動を思い起こしています。東北では一挙に超高齢地域が出現し、震災があぶり出す社会の歪みに対応することは、即ち社会全体の課題に対応することでもあることを実感しました。

老老介護、限界集落、消滅可能性都市、格差社会、児童虐待・・・社会問題は複合化し、不安材料は身近に起こっていますが、課題を先取りし対応してきたＣＳ神戸こそ、この 20 年のがんばりを確かな形にし、後輩に後世に他地域に発信する責務があります。折しも来年度は、改正介護保険法、生活困窮者自立支援法、こども子育て支援法といった生活関連の三法が施行されます。制度の大きな変革期と符合し「自立と共生」に基づく人財養成を柱に、系統的かつ包括的な地域活動・事業の支援を目指します。

年明けより会員・スタッフ・役員でチームを編成し、方針を具体的な形に練り上げ、鋭く重い問いかけへの答えを提案する準備をしました。

ＣＳ神戸の 20 周年である 2016 年に向け、これまでの活動を集大成し皆様方との様々なつながりで地域貢献に努め、末永くエネルギー交換できるパートナーとしてお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

特別寄稿

誰もが尊重され支えあうということ

CS 神戸トータルアドバイザー 星野 裕志（九州大学大学院経済学研究院教授）

今年は、太平洋戦争の終戦から 70 年、阪神淡路大震災から20年の大きな節目が２つ重なる年になります。戦争、天災、病気、肉親や親しい友人の死は、いやがおうでも個人の価値観が大きく変わるきっかけになりますが、人生の中にこれほどの大きな出来事を経験した人であれば、改めて自分の生き方を振りかえることになるのではないでしょうか。

神戸に赴任して一カ月、東灘区内の自宅で、あの下から突き上げるような感覚に、悪い夢を見ているのではないかと思ったあの日から、自分の価値観が脆くも崩れて、本当に大切なこととは何かを問い直すことになりました。

震災以前は、企業人として大きな可能性を感じながら、自分がどこまで昇っていけるのだろうかと考えていました。多忙な毎日の中で、仕事にやりがいを見出し、同時に勤務していた企業にも貢献している自分を感じていました。もちろん年齢もあったのかもしれませんが、見えないものと競争していた毎日でした。そのような積み重ねが、昇進やチャンスに繋がるのだろうと思いながら。

あの震災の衝撃とあまりにも悲しい数々の出来事を忘れることはできませんが、その中に唯一救いがあったとすれば、人間はこんなにも優しくなれるということを知ったことです。自らが大変な状況にあっても、身も知らない他人を思いやる気持ちを持てることということを、線路伝いに歩きながら、また街角で、たくさん目撃することになりました。

中村さんが始められた東灘地域助け合いネットワークに入れていただいたのは、震災から 10 日目でした。家族や親しい友達に手を差し伸べるのが当然ならば、同じように困っている近所のひと達を助けるのもまた自然なことだと。助け合いは、お互い様であって、「できる人」が「できない人」を助ける一方通行のものではないことも、活動の中で学ぶことになりました。何よりも高校中退の若者から、元気なシニアのみなさんまで、共通基盤や共通言語を持たない仲間との活動は、今迄にない多様性との交流経験であり、気付きの連続でした。目の前のそして見えない誰かの役に立つことに、大きなやりがいを感じることになりました。

星野 裕志 氏

この精神は、CS 神戸にも受け継がれているはずです。組織は存続の為に活動するのではなく、その目的のためであり、市民団体であればそれはミッションとして謳われています。CS 神戸の「誰もが尊重され支えあう地域社会の実現」とは、スマートで効率的な NPO の活動ではなく、地域の中のお互い様の関係を地道に築いていくことなのかもしれません。ひとの温もりが感じられること。寄り添う心。あの頃のひとの優しさを思いながら、しばし原点を振り返ってみたいと思います。

震災から 20 年。自分の目指した自分になれているだろうかと、私も改めて問い直してみたいと思います。

阪神大震災翌日の水くみボランティア

1996 年 10 月 CS 神戸オープン

地域活動事業部／東灘区民センター小ホール　地域の方々にさまざまな学びの場を提供していきます！

2013 年度に引き続き、11 月 15 日（土曜）に「子どものための児童館とＮＰＯの協働事業」として、親子防災教室『「魚崎町防災福祉について学ぼう」～阪神淡路大震災から 20 年 自分の命は自分で守る子どもに～』を開催しました。

この事業は、CS 神戸と神戸市立魚崎児童館との協働事業で、魚崎町防災福祉コミュニティ、魚崎北部・南部民生委員児童委員協議会、魚崎・魚崎南ふれあいのまちづくり協議会とも連携して進めました。

当日は、阪神淡路大震災から 20 年を迎えるにあたり、当時のニュース映像と魚崎地域の様子を紹介したほか、親子で地震・津波に関係する知識を高めるための「防災○×クイズ」、災害時のジレンマを考えるワークショップ「クロスロード」、非常食作りや試食をしながら、災害時に必要な知識を親子で一緒に学び、考えてもらいました。

参加者からは、「若い子育て世代がわが町の地震・津波対策について認識を高め、災害時の行動を身につけました。」、「子どもを中心にした、家族の防災対策を考えるきっかけとすることが出来ました。」、「どこにいても、災害から自分の命を守ることができる行動を学びました。」などの感想があり、親子で防災を考えてもらえるために良い機会を提供できたと考えています。

（兵頭）

4m 津波を疑似体験するこどもたち（写真上）

非常食作り＆試食（写真左）

地域活動事業部／JR 住吉駅前駐輪場　障がい者の方と落ち葉清掃＆現場事務所にパソコン導入

■障がい者の方と落ち葉清掃

昨年度に引き続き、障がい者の方に住吉神社裏の道路と駐輪スペースの落ち葉清掃を行っていただきました。10 月 20 日～12 月 17 日、月～金の各曜日に 1 団体ずつ、合計 5 団体に来ていただき、延べ 138 名の方にご参加いただきました。4 月から 12 月の障がい者有償ボランティアの受入人数は 355 名となり、前年比で 77 名増加しました。

スタッフと一緒に落ち葉清掃

パソコン入力中のスタッフ

■現場事務所にパソコン導入

利用者の管理台帳は、いままで手書きでしたが、パソコンでの管理を進めています。平均年齢 73 歳 7 カ月の現場スタッフの中にはパソコンに触れたことのないメンバーもおり、一から勉強を始めました。シンプルな操作で済むように工夫を凝らし、図入り、写真入りで出来るだけ平易に説明したマニュアルを作成、皆で学び合いました。7 月から取り組み始めたのですが、今期中には全部移し変える目途がつきました。駐輪場の業務は総じて地味な仕事ですが、業務品質の向上を目指して、これからも積極的にチャレンジし、トライアル＆エラーを重ねて行きたいと考えています。

（岡本）

駐輪場スタッフ便り「ひと言」

現場リーダー　尾山　宗久

今回は北の駐輪場についてご紹介します。ＪＲ住吉駅の北側にあり、駅のそばの地下にあるので、雨の日も安心して駐輪できます。出勤したら直ぐに出入口、照明器具、側溝の汚れなどの確認を行います。それが終わった頃からご利用者が増え始めます。重い大きな自転車の方には「こちらへどうぞ」と声かけをしたり、困っている方にはお手伝いをしたり、そして何よりもスピーディーな対応を心がけています。清掃にも気をつけ、奉仕の気持ちを忘れず、安心して利用できる駐輪場を目指して努力しています。

地域活動事業部／生きがい活動ステーション

オープンから 7 カ月、来訪者は 6,000 人を越えました！

昨年 6 月にオープンした生きがい活動ステーションは開設から 7 カ月がたち、述べ 6,000 人以上の方に来訪いただきました。「活動の担い手を増やし、つながりのある地域社会の実現」を目標に、ボランティア紹介やグループの立ち上げ支援などを行っています。

「ボランティアはじめの一歩」、「地域デビューする？！」、「おひとりさまの新しい地域ライフ」といったテーマで月 1 回実施している『交流サロン』、地域でご活躍の方を講師としてお招きする『市民塾』も回数を重ね、実践的な活動につながる方も増えてきました。

生きがい活動ステーションのスペースを利用して、自分のプラン試すことができる『トライやるサポート』では、親子交流サロンや認知症に効果があるといわれている臨床美術のワークショップなど 5 件を実施、今後も高齢者対象の収納講座や健康講座をやってみたい、という依頼も受けています。オープンスペースの強みを活かし、立ち上げ期や新規事業の助走をお手伝いする仕組みとして、一般広報も始めました。

また 2 月より新たに実施するのが『居場所コーディネーター養成講座』（まちスポ神戸でも同時開催）。孤立化や介護保険制度の改正で、誰もが気軽に立ち寄れて交流できる「地域の居場所」がますます必要とされている今、当講座を通じて、できるだけ多くの拠点が生まれることを願っています。

生きがい活動ステーションは、公共施設の中にあり、立ち寄られる方は「ついで」や「たまたま」の方がほとんどです。立ち話をしたり、主催イベントにお誘いしたりしながら、「じゃあ、私もちょっとやってみようかな」という言葉を引き出すのが一番大切な仕事です。これからも、ひとつひとつの出会いを大切にしながら、地域で一緒に活動する仲間を増やしていければと思っています。（飛田）

市民塾での集合写真

地域活動事業部／まちづくりスポット神戸

おかげさまで 1 周年を迎えました！

商業施設内に設けたコミュニティスペースを大和リース（株）と CS 神戸が協働で運営し、地域コミュニティの活性化に取り組む「まちづくりスポット神戸」は、おかげさまで 1 周年を迎えました。

半年が過ぎた頃から登録会員が増えはじめ、活動者が集う場になりましたが、会員同士の接点を作れないことが課題でした。

そんな中、会員からの提案もあり、会員同士の連携を深めることや、地域へ活動を紹介することで、地域活動者の輪を広げることを目的とした「まちスポ神戸ふれあいまつり in BRANCH」の開催が決まりました。

開催の 4 カ月前から登録会員 25 団体の代表者が実行委員を務め、BRANCH 神戸学園都市スタッフにも加わっていただき、会議を重ね取り組んだ大きなイベント。顔を合せ、言葉を交わすことで団体同士の交流、連帯感が深まり、それぞれの呼びかけで新たなサポーターが参画、さらに兵庫県立大学、流通科学大学の学生のみなさんの運営協力もあり、大きなエネルギーが結集。商業施設が地域づくりのプラットフォームになりうることを実感しました。

11 月 14 日（金曜）、15 日（土曜）は、気温が低く寒いながらも好天に恵まれ、会員ブース、ワークッショップ等 2 日間でのべ 4,631 名もの参加がありました。参加者からは、「手作りの来場者参加型のおまつりで、とても心が温かくなり、素敵な地域だなと感じた。」との声も寄せられ、会員のみなさんと達成感を共有できた事業となりました。

そのほか、商業施設屋上を利用し、兵庫県立大学連携講座として専門的な指導を受け野菜づくりに挑戦する BRANCH ベジガーデン（4 月から夏野菜講座、9 月から秋冬野菜講座を実施）では、野菜作りを通して新たな地域交流が始まりました。そして、この講座を陰で支えたのは、2013 年 9 月に実施した「まちそだて講座」修了生 5 名で結成された「Team ベジガーデン」のみなさんのサポートです。このように、まちスポの講座受講生が次々と新たな地域活動をスタートされていることが、この地域の財産となっていくものと考えます。

今後もみなさんからの相談に柔軟に対応し、「地域活動はじめの 1 歩」をアシストしていきたいと思います。（向山）

一生懸命練習してくれたダンスを披露する子どもたち

野菜のお世話をする受講生の皆さん

市民活動事業部／生きがいしごとサポートセンター神戸東　ハンズオン・インターンシップ、メンター研修セミナー

ワラビーの「相談」だけではなかなか就業にたどりつけない若者たちを対象に、就労に向けた長期の体験型の研修「ハンズオン・インターンシップ」を、三菱重工業（株）神戸造船所からの寄付を受け、実施しています。

この事業の要は、インターンに寄り添い、気持ちを受け止めながらも前に進む手助けをしてくださる「メンター」の存在です。週２日、定期的に来てくださる方をはじめ、必要時にお声掛けをして来てくださる方、外部研修を引き受けてくださる方など、大勢の方に支えられながら事業を行っています。

しかし、就労を巡る環境の変化や若者を取り巻く社会の変容など、複合的な要因をバックグラウンドに抱えたインターンたちに対応するメンターも悩みながらの毎日です。そこで、メンターのサポート力の向上を目指しての研修セミナーを実施しました。

研修内容は全３日。１日目は神戸市垂水区で自宅開放型からスタートしたフリースクール「NPO 法人ふぉーらいふ」理事長の中林さんに、「寄り添い型支援とは？」をテーマにお話しいただきました。

２日目は体験談として、引きこもりの当事者団体「ＮＰＯ法人グローバルシップス神戸」を立ち上げた森下徹さんから、支援者から言われて嬉しかったこと、辛かったことなど、支援を受ける側の本音を伺いました。

３日目は「社会福祉法人すいせい」の副理事長、岸田耕二さんから、精神障がいや発達障がいの特徴とその対応方法を大変分かりやすくレクチャーいただきました。

参加者一同、インターン達との関わりを思い浮かべながら、共感したり反省したりと中身の濃い３日間の研修となりました。メンターたちの思いがインターンに届くことが、ハンズオン・インターンシップを卒業した後も元気にがんばっていく原動力になると信じ、インターン一人ひとりの心に届く支援をめざしていきたいと思っています。　（狩野）

講師の話に熱心に耳を傾けるメンター

市民活動事業部／CB 全県活性化事業　丹波地区のさらなる地域活性化を目指した取り組み

丹波市地域でのコミュニティ・ビジネス（ＣＢ）起業・就業支援を拡充するための活動は以下のように進捗しました。

■丹波市に中間支援組織の誕生

丹波市において初めての中間支援組織「ＮＰＯ法人 gift」が認証を経て、12 月 26 日に設立されました。（ＣＳ神戸も相談をうけて組織づくりや申請書類作成をお手伝いしました。）今後も支援を継続していきます。

■起業支援講座の開催

８月の豪雨・土砂被災により、初級講座は中止になりましたが、ＣＢ起業するための「実践塾」（丹波市・CS 神戸共催、少人数制）は、計画どおり 10～11 月に３回シリーズで開催され、意欲ある５人の参加者が、中身の濃い討議を通じてマーケティング手法を活用した事業計画作成方法を学びました。

地元の人材発掘・育成を目的に起用した若手講師２人から、CB の要としての 1)主要な顧客は誰？（ペルソナ分析）２)収支バランスの取れた実行可能な事業計画（ロジックツリーによる細分化、フェルミ推定による精度の高い量的概算法）を具体的に学習した参加者の満足度は、CB 起業計画取り組みにむけて非常に高いものでした。

CB を担う人材の裾野を広げるための「地域プロデューサー養成講座」（市主催）が、1～2 月に２回開催されることになり、CS 神戸もこれを後援するとともに、実践塾参加者の起業計画も支援していきます。

■見学バスツアー

全県活性化事業を分担している県内６カ所生きサポが協働して、11 月、12 月に但馬、丹波・篠山、淡路の３地域の CB 先進起業団体を見学するバスツアーを行いました。丹波市地域からは、但馬に１名、丹波・篠山に４名、淡路に 10 名が参加され、全体でのべ 49 名がこの企画に参加されました。各コースとも好評のうちに無事見学を終え、生きサポ間の連携・協働関係がさらに前進しました。　（藤井）

綿畑を見学しながら生産者の方と交流

市民活動事業部／**コミュニティビジネス実践講座**　29 名の参加を得て、終了しました！！

今年で 4 年目となる「コミュニティビジネス実践講座」を実施しました。初日の講師は一般財団法人ダイバーシティ研究所代表の田村太郎氏。「コミュニティビジネス（CB）とは何か？」、「成功する CB の事例」というテーマで、CB が注目される理由や、全国各地の先進事例をご紹介いただきました。2 日目以降は、CB 実践者の事例発表で、衣料を中心としたリサイクルショップの運営を通じてシングルマザーを支援する仕組みや、住み開き手法（自宅の一部を開放すること）で高齢者の居場所づくりを行っている事例をご紹介いただきました。

後半は、シニアワークセンターとよなか代表の与那嶺学氏をお迎えし、「事業計画の作り方」、「収支予算の立て方」など、実践的な講座が続き、参加者自らが CB の事業計画書を作成、事業計画の発表を行い終了しました。事業プランは農作物の移動販売、まちなかカレッジ、生活保護世帯の学習サポートなど多岐に渡りましたが、「思い切って参加してよかった」、「前に進む勇気を与えてもらいました」といった感想が聞かれ、講師や受講生同士の意見交換を通じて多くのヒントを得ていただいたようでした。講座終了後も、個別相談は継続しており、実践に向けて現在準備中です。

（飛田）

講座の様子

市民活動事業部／**NPO マネジメントスクール**　18 年目を迎えこれまでの受講生は 1,000 名を超えました！

今年で 18 年目となる NPO マネジメントスクール。これまでの受講者数は、述べ 1,000 名を超えており、今年度は、2 カ所で開校、神戸校は、11 月 8 日にひょうごボランタリープラザで、丹波校は、12 月 6 日丹波の森公苑で、計 15 名の参加がありました。

今年度は新たに、事前に対面相談を設け、マネジメントスクールでの学びをより深く理解してもらえるよう、組織の強み、弱み、ビジョンなどの現状確認シートの作成を行いました。

マネジメントスクール当日は、午前中に當間克雄氏のマネジメント手法を学ぶ講義を受講し、その後、グループに分かれ、ケースをもとに、SWOT 分析、戦略マップ、BSC（バランススコアカード）を作成したうえで、どのような支援やマネジメントを行う必要があったのかを議論しました。

午後からは、午前中に学んだことを参考にしながら、事前に作成した現状確認シートをもとに自団体の戦略マップと BSC を作成し、発表を行いました。受講生の方々は、自団体をさらに向上させるために、より多く吸収して帰りたいとの積極的な姿勢がみられ、様々な質問が飛び交いました。また、休憩時間や講座終了後にも、参加者同士の意見交換などの交流が活発に行われていました。

受講者からは、「法人や自分が関わっている取り組みの強み・弱みを知るだけでも、方向性が自然と見えてくるのが不思議に思えました。」、「頭が整理されました。できることから 1 歩ずつ進んでいきます。」との前向きな声が寄せられました。　（柳田）

神戸校　受講生の皆さんと集合写真

丹波校　受講生の皆さんと集合写真

市民活動事業部／生活・介護支援サポーター養成研修 「担い手養成講座」の現状報告

CS 神戸の介護予防・日常生活支援総合事業の要は市民の主体性に基づき運営される新たな住民参加サービス等の担い手を養成することです。その担い手は、「生活・介護支援サポーター」と呼ばれ、地域の高齢者の生活を支える活動を創出、あるいは支援することを目標にしています。市民フロンティア 74 号でお知らせしたとおり、神戸市からの委託事業として、その担い手を養成する研修を開催することになりました。

ボランティア活動をする意志があっても地域活動をする機会がない多くのシニアの方々に自分の役目がどこにあるのか、生きがいがどこにあるのかを解き明かすには、導入時の研修内容によるきっかけづくりがとても大切です。

実際、シニアの方々からの関心の高さを実感することができたのは、募集開始 2 日で募集定員に達したことです。参加者の男女比率は、女性が約 7 割、男性が 3 割で、男性の数は予測を上回りました。年代で見ると 60 代が 9 割を占めています。

昨年 11 月から始めた座学研修は、4 回目までが終了しており、講座の構成は、「生活・介護支援サポーターとは？」の基本的な理解と、「生活・介護支援サポーターになるには？」の大きく二つに分け、それぞれの専門の先生に講義をお願いしました。また、より一層、理解を深めていただけるよう、各講義終了前の 15 分間を使い、参加者によるグループディスカッションの時間を設け、その中から、質問を考え、発表するという演習時間を作りました。各講義についての質問やアンケートでは、前向な積極的な提案が多く、各講義の理解度は 90%以上でした。1 月 8 日からは、8 団体、18 カ所で現場体験実習が行われています。受講生が実現場でどのようなことを体験され、どのようなことを感じたのか、2 月 5 日に行われる「現場体験実習のふりかえり」で感想を聞くことを楽しみにしています。

今後さらに高齢化が加速する中で、「生活・介護支援サポーター養成研修」は、今後も継続的に実施されることでしょう。エネルギッシュで活発な団塊の世代を中心とした方々の活躍が期待できます。 (小林)

熱心に耳を傾けメモをとる受講生たち

グループディスカッションで質問、発表内容を話し合う受講生たち

市民活動事業部／外部評価 外部評価機関のあり方と介護サービスの質に関する考察

CS 神戸は平成 24 年 3 月に外部評価機関として認証を受けました。本年度の評価件数は大幅に増加しています。一方、事業所側ならびに評価機関側に対して、評価は今のままで良いのか辛口に検討して見ました。

評価機関側

- 志は低く、ビジネスの色彩濃く営業活動が鍵になっている。現在、限られた対象事業所数を約 6 つの評価機関が評価しており、新規参入には壁は高く、寡占・独占市場になっている。
- 自前の方法で研修・評価をするため、評価の偏り等、独断的になっている。
- 評価結果の記述は、冗長で、簡潔な記述が望まれているはずだが、一方で、長文であるほど良いという考えもある。

事業所側

- 大きな法人は、評価機関の選択決定は本部にあり、現場の管理者の意向は尊重されない傾向もある。
- 義務だから仕方ないが、費用をかけたくない。
- 目標の設定は、単なる羅列で総花的で、一年経っても未達成の項目がある。
- 災害対策等、本部の方針があって改まらない。事業所に自己決定権がない場合が多い。

これらは両者が共に同じ土俵で検討すべき内容でしょう。 最近、約 50 カ所の事業所の計画作成担当者を対象にした研修会に参加しました。参加者の真剣なまなざしと討論に感激しました。外部評価される側と評価する側とは真摯に向き合い、利用者によりよいサービスを提供するために共に切磋琢磨していく必要があると強く感じた一日でした。

（小林）

新春のつどい

新年を皆様とともに笑顔で迎えました。

1月9日、2014年度新春のつどいを開催しました。たくさんの方が参加してくださり、狭い事務所にぎゅうぎゅうの状態になりましたが、その狭さが功を奏し、あちらこちらで賑やかな声が聞こえていました。

中村理事長の「乾杯」の声で新春のつどいがスタート。料理をつまみながら、普段はなかなかお会いすることができない方々と交流を深めました。途中、2014 年度の CS 神戸の事業報報告を行い、スタッフの活動に対し、温かい拍手とエールをいただきました。盛り上がるなか、さらに新春のつどいに華を添えてくださったのは、賛助会員である、山本ご夫妻のジャズ演奏。素敵な音色にうっとり、ムーディーな雰囲気に包まれました。演奏の最後には、松下監事のハーモニカが加わり、全員で唱歌を斉唱しました。じゃんけん大会では、歓声の声や溜息が聞こえるなど終始、笑いありの和やかな雰囲気の新春のつどいとなりました。（柳田）

笑顔で乾杯！（上）
ピアノとハーモニカの演奏に合わせ全員で唱歌を斉唱（下）

「ひょうご女性未来・縹（はなだ）賞」

スタッフの飛田敦子が受賞しました。

スタッフの飛田敦子が 2014 年度「ひょうご女性未来・縹（はなだ）賞」を受賞しました。

この賞は、ひょうご女性未来会議が21世紀のひょうごを担う活躍が期待される女性をたたえるために 2003 年に創設、毎年 3 名が表彰されています。

受賞者との記念撮影（右から 3 番目）

会員 寄付 お礼 応援、ありがとうございます。

（2014 年 10 月 1 日～2015 年 1 月 9 日）

※まちづくりスポット神戸の会費は、別枠で取り扱っています。

務川 悦孝、垣口 哲朗、松元 隆平、菅 祥明、日下 恵子、林 祐介、稲田 薫、大久保 和雄、泉 勇策、野崎 亜子、中山 照彦、山本 好克、山本 容子、古川 健一、朴 京守、中村 順子、狩野 仁未、飛田 敦子、向山 良子、NPO 法人神戸ライフセービングクラブ、NPO 法人サポートステーション灘・つどいの家、大和リース株式会社、三菱重工業株式会社神戸造船所（順不同）

前号で一部掲載もれの方がおられました。今号であわせて掲載させていただきます。

2014 年度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会　費】個人会費：3,000 円／年
団体会費：10,000／年

【振込先】名　　義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸
郵便振替：00950-2-144205

編集後記

阪神大震災から 20 年。皆さん、さまざまな思いを胸に今年の 1 月 17 日を迎えたことと思います。20 年を振り返ってみて、改めて「人と人とのつながり」の大切さを実感しています。CS 神戸は、これからも「自立と共生を目指し、より良い社会のために主体的に活動する人々をサポートするとともに、自らの活動を通じて、誰もが尊重され支えあう地域社会の実現」をめざし頑張ります！

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸（CS 神戸）
〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104
TEL：078-841-0310 FAX：078-841-0312 E-MAIL: info@cskobe.com
URL http://www.cskobe.com/
2015 年 1 月 25 日発行 通巻 75 号 発行人：中村順子 編集人：柳田さおり